

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

済美	中学校区	校番	福山市立	瀬戸小	学校
最終更新日			2026年(令和8年)4月15日		

I 福山市

めざす姿 すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 各校の課題を踏まえ、中学校区共通のミッション・ビジョンに基づく取組が推進されている。「主体的・対話的で深く確かな学び」の実現に向け、学ぶ力や成長する力を育む授業づくりが継続され、達成感や充実感を味わえる実践が進められている点は評価できる。また、不登校児童生徒への支援や他者との関わりを重視した取組も行われている。今後は、情報発信の充実を図り、保護者・地域と連携した教育活動を一層推進することが求められる。	児童生徒の現状 ○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。 ○家庭学習が習慣化していない児童生徒が多く。また、基礎が定着していない児童生徒が多い。 ○相手意識を持った行動が不十分な児童・生徒が多く、人間関係のトラブルも多い。 ○長欠・不登校の児童・生徒数が増加傾向にあり、支援が必要である。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として 統一した取組等	○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○他者とかかわり合う力・心 ①自らの目標に向かって努力し、チャレンジしている。 ②場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③他者とかかわり合いながら共感的人間関係を築き、共によりよく生きようとしている。 ○「選択・決定」「対話の充実」「振り返り」をキーワードに授業づくりを進める。 ○「主体的、対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 ○児童会・生徒会活動の活性化による規範意識と共感的人間関係の育成
---	---	--	---

III 自校

学校教育目標 自ら考え、学び合い、ともによりよく生きる子どもの育成		育成する力 資質・能力	○課題発見・解決力 (問いを持つ 振り返る 見通す) ○コミュニケーション力 (聴く 伝える まとめる) ○他者とかかわり合う力・心 (思いやり 社会性 貢献)
現状 〈児童生徒〉 学習に対する意欲や粘り強さは着実に向上しているものの、標準学力テストにおける基礎学力の課題は深刻であり、学力分布は下位に分散している。特に、漢字、計算といった基礎的な知識理解や論理的思考に課題が認められる。授業における自力で課題を解決していく学習方略が未定着である。家庭学習習慣、読書の習慣が顕著に希薄であり、スマホ使用等の家庭ルールが確立されてない。自己肯定感は低くない。一方で、集団の中で貢献する機会が脆弱なため、自己有用感が低い傾向がある。	めざす子ども像 1・2年 自ら問い「なぜ・どうして・どうすれば？」等をもち、考えたり・話し合ったりしながら、ゴールに向かって粘り強く学んでいる。 3・4年 自ら問いやめあてをもち、自分の考えやその理由を、適切なことばで書き留めながら(「見通す」振り返る)を繰り返して学び続けている。 5・6年 学び続ける中で、学習内容や学び方等を振り返りながら、次の目標や課題を自ら見出し、見通しをもって学びに向かっていく。	自分の周りの人たちの言葉を、目標を合わせ、うなずき・つぶやき(「へえ〜・ほお〜・なるほど・すごいね!」等)ながら、聴いている。 自分の考えを、相手に分かりやすく(主・述の明示、結論⇒根拠、例え話の挿入、図表や絵・写真・ホワイトボードの活用、声の大きさ、間の取り方等)伝えている。 相手の考えを、自分の考えと比べたり関連付けたりしながら聴き、問い返したり、整理しなおしてより明確に伝えている。	自分の周りの人たちの思いや、そう思う理由に気付き、自分の思いを「はい・ありがとう・ごめんなさい」等で表したり、誰かの役に立とうとしたりしている。 相手の立場やその時の思いを、自分に置き換えて想像し、共通点や相違点を見出しながら、折り合いをつけ歩み寄り「そうか・そうなんだ」等、励ましたり「いっしょにやろう」等しようとしている。 多様な他者とかかわりを通して、それぞれの良さやちがいを発見し、受け入れながら、助け合ったり、高め合ったりしようとしている。
〈授業〉 課題解決学習の展開になっておらず、①めあて、②作業、③まとめの大まかな展開になっており、教職員が学習指導案づくりを通して授業の「構成」を意識する必要がある。 また、課題提示型の授業が多く見られ、児童が既習の知識や経験との比較から自ら発見した課題になっていない現状がある。このため、子どもたちで「問い」を立て、学習のゴールに向けて、自力解決したり練り合ったりする経験を積ませる必要がある。	テーマ 自らの考えをもち、伝え合い、深め合う学びづくり ～自分の成長を実感できる「問いの形成」を目指して～ 研究 内容等 ①「単元を貫く問い」を意識して課題発見解決学習を展開する ②授業コーディネート力向上のための研修を実施する ③適正な見取りで指導と評価の一体化を図り、学習をあきらめる児童を作らない。	めざす授業の姿 自ら「問い」を持ち、既習・経験・他教科等とつなげて、「何ができるようになるか」明確にして解決しようとしている 自ら考え、対話しながら、広げたり・深めたりしている 見通しを立てたり、振り返ったりしながら粘り強く学んでいる	